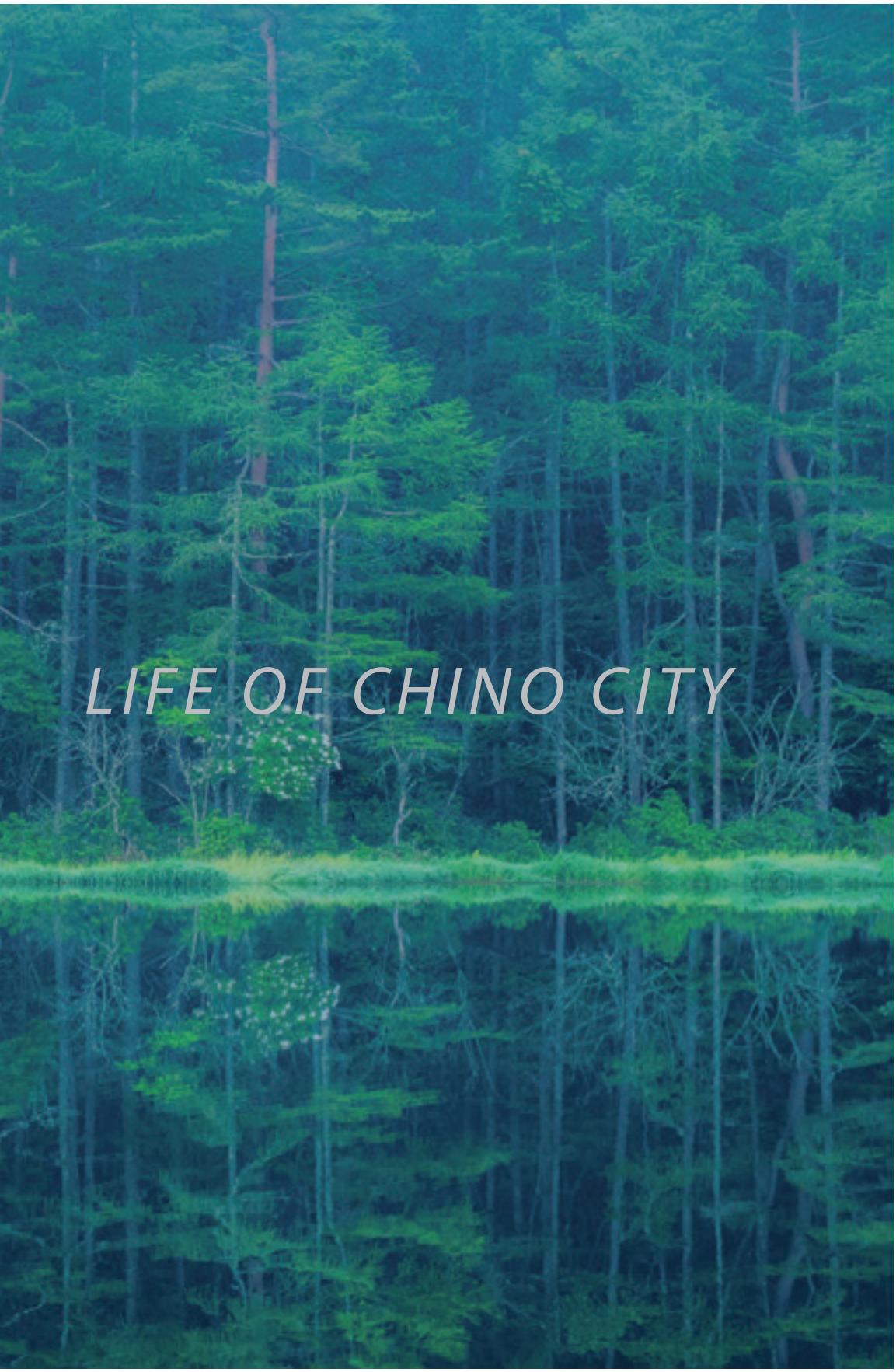
広報2020
ちの
Chino City

令和２年
No.907
１月号

「チノシノイノチ」がスタート

読書の森 読りーむ in ちの

今号では茅野市の魅力を市内外に伝える「チノシノイノチ」がスタートします。「インターネット動画サイト『ビーナネットChino』と連動した企画で茅野市の魅力を各分野に関わる人のインタビューを通して届けます。今回は「読書の森 読（ど）りーむ in ちの」の方からお話をお聞きしました。



チノシノイノチ

茅野市インターネット動画サイト「ビーナネット Chino」

平成30年の４月にスタートしたインターネット動画サイト。茅野市の暮らしや文化などの魅力を動画で配信しています。「チノシノイノチ」も１つの番組として八ヶ岳など４つのテーマを配信しています。ご覧になりたい方は左のQRコードを読み込んでください。

命という言葉は「生きるための力」「最も大切なもの」など様々な意味を持つ言葉です。茅野市には雄大で豊かな自然を有する八ヶ岳連峰、約五千年前に栄えていたといわれる縄文文化の歴史、そして地域を愛し、つながりを大切にした暮らしを営む人々など、かけがえのない「モノ」「コト」「ヒト」で溢れたまちです。これらを「チノシノイノチ」として紹介する冊子と動画を昨年市制施行60周年を記念して制作しました。これからは「広報ちの」と茅野市インターネット動画サイト「ビーナネットChino」との連動企画として、市内の様々な分野に関わる人のインタビューを通して、茅野市の魅力を伝えていきます。

読書活動

読書の森 読（どく）りーむinちの の皆さん

読書の森 読りーむ in ちの

平成11年度に始動し、平成12年7月に発足。行政と市民がパートナーを組み、胎児期からの「ことばとこころを育てる読書活動」を進めている。

茅野市インターネット動画サイト『ビーナネット Chino』ではインタビューと活動の様子を配信しています。

保育園の朝の読み聞かせでは、声をかけると子どもたちが集まってきて真剣に聞いています。

全ての子どもたちへ 読書を通して伝えたい

出生届の提出時と4カ月検診時に絵本を贈るファーストブックプレゼント、小学校入学時の1年生に本を贈るセカンドブックプレゼントの活動や地域でおはなし会などを開催する読書活動推進組織「読書の森 読(ど)りーむinちの」(以下：「読りーむinちの」)。その発足は平成12年に市の教育分野の柱に「読書」を据えたことが始まりだ。

「当時は、全国的に心の荒廃に起因する子どもの事件を耳にすることが増えていました。そこで、市長、教育長たちとこの問題を解決するための話し合いを行い、茅野市の全ての子どもが関われる取り組みとして「読書活動」を推進することになりました。」と話してくれたのは「読りーむinちの」会長の五味一男さん。

「読りーむinちの」は、赤ちゃんのころから本を読む習慣を身につけてほしいと願う読み聞かせグループや、40年以上絵本の読み聞かせを保育園で実践してきた保育士たちが中心となり、市とパートナーシップを組む読書推進組織として設立し、全国に先駆けてファーストブック、セカンドブックのプレゼント活動を始めた。この他にも市内すべての小・中・高等学校での朝読書、広報紙「読書の森」の発行、地域で行うおはなし会など読書活動の推進に関わった様々な施策を公民協働で実施している。また、多くのメンバーがこの活動だけではなく、読み聞かせグループなどに所属して積極的に活動していることも読書活動が浸透していった要因となっている。

「「読りーむinちの」の活動が始まったころは、朝読書の時間に席に着いて本を読む、聞くという習慣が十分に身についていないので苦労も多かったですが、今では、「読み聞かせをするよ」と声をかけるだけで、自然と子どもたちが集まるまで定着してきました。また20年前には見られなかった本をたくさん読む、本を大事にする姿も多く見られるようになり、本からことばとこころを獲得して、落ち着いて物事に取り組めるようになった子どもがとても増えました。」と取り組みの成果を五味さんは語る。

ことばとこころをつなぐ

主な活動であるファーストブック、セカンドブックのプレゼントは、それぞれ30冊のリストから希望する絵本をご家族や児童に選んでもらう。プレゼントの際には、４か月検診時の保健師や小学校の先生に配布を頼むのではなく、「読りーむinちの」の会員や関係者が必ず出向いてプレゼントしている。

「ただ本を贈るのではなく、子どもたちに直接本を手渡します。手渡すときに、どうしてこの本を選んだのかなといった会話や会員がその場でプレゼントした絵本を読み聞かせるなどの交流を通じて、人の温もりを伝えることも大切にしています。また、メンバーは自分たちも学び、楽しみながら活動をしています。読書の種をまき、育てる活動を通して、人と人がつながることを大切にしています。」

この「ことばとこころをつなぐ」活動が20年間受け継がれている。

４カ月検診でプレゼントするファーストブックの袋詰め作業。ご家族が選んだ本を大切にしまい、赤ちゃんの名前を書いて完成します。

ファーストブックは市民、図書館職員、保育士など十数名の選書委員が200冊の絵本の中から「人生で最初に出会う本」として30冊を選びました。

セカンドブックプレゼントの様子。地域の方々や保育園に通っていた時の先生などから直接手渡します。

４カ月検診のファーストブックプレゼントの様子。「読りーむ in ちの」の会員がプレゼントした本の特徴や楽しいところを紹介します。

保育園、小学校の読書時間には先生はもちろんのこと、保護者や地域の方々が、工夫とアイディアがいっぱいのおはなし会なども開催してくれます。

先輩から引き継いだことを次の世代へ

五味さんはご自身の教員生活で赴任した県内の他地域と茅野市の読書活動に違いを感じている。

「茅野市の人口規模で公民協働の読書活動が継続して行われている自治体は多くありません。行政が一部のボランティア団体を支援する。あるいは行政が単独で行っているケースが多くありました。茅野市では、行政と市民が公民協働で実施しているので、広域的かつきめ細かい事業を展開していると実感しています。これまで活動を継続してきた先輩たちがやりがいや楽しみを感じてきたからではないでしょうか。」

「読りーむinちの」の活動はこれまで多くの表彰を受けており、平成28年には博報賞(※)を受賞し、副賞で茅野市こども読書活動応援センター（図書館内）に文庫を設置し、市民の活動に生かせるよう準備を進めている。これからも読書活動を通じて伝えたい願いや思いもまた大きい。

「忙しい時代ですが、ぜひご家庭で読み聞かせをして親子の時間もつくってほしいですね。また、子どもたちにはことばの大切さを考え、理解できる大人になってほしいです。絵本を一冊作るにはたくさんの人たちのアイディアや思いが詰まっています。その本から感じたことやことばを大人になって子どもや孫にも伝えてほしいですね。」

初めてファーストブックをプレゼントした子どもたちが成人を迎える時期が来た。子どもの時に自分たちが受けた喜びや楽しみが心の中に残っていて、大人になってどの本を選び、読み聞かせで子どもたちに伝えてくれるのか。次の世代に向けた活動に期待しながら「ことばとこころをつなぐ」活動を続けていく。

※博報賞　博報財団により創設され、児童教育現場の活性化と支援を目的に、今後の活動に可能性がある団体に贈られる賞

読書の森 読りーむ in ちの

おはなし会や読み聞かせなどのご要望がありましたらお気軽にご連絡ください。

問　茅野市こども読書活動応援センター　☎0266－75－1250

「読書の森 読りーむ in ちの」の活動

月夜のおはなし会

お寺や公民館など出かけやすい場所を中心に地域の方々に参加をしてもらう、地域や団体の特色を活かした楽しいおはなし会です。毎回お土産でプレゼントする折り紙も大好評です。

広報誌「読書の森」発行

読書活動に関わるイベント情報や会員がおすすめする本の紹介など読書活動推進のための情報を年3回発行しています。市内の保育園、小学校、中学校、高等学校で配布しているほか、図書館や地区コミュニティセンターで手にすることができます。

方言かるたとり大会

ひじろの会が中心になり、茅野市で使われている方言をかるたにまとめました。八ヶ岳総合博物館で行われる「博物館元旦まつり」で「縄文かるたと」ともに楽しんでいただきました。

その他のイベント

茅野市芸術祭や宮川地区こども館の「ハロウィンおはなし会」など地域の皆さまたちと新しい企画も実施しています。